



北区エバンジェリスト検証授業①

特別支援学級

特別支援学級における個別最適な学び

滝野川小学校・佐藤 歩先生の実践

北区では、令和3年度のGIGAスクール構想立ち上げに伴い、区内の教員の中から先進的にICT活用を実践し、成果や課題を区内で広める役割のエバンジェリストを選任しています。今月から4回に渡ってエバンジェリストの教員による実践授業を紹介します。

今回は滝野川小学校・特別支援学級担任の佐藤歩主任教諭の算数科「あまりのあるわり算」の授業を参観しました。

* * *

▶個に応じたICTの活用

学習内容は3年生の単元ですが、児童は発達段階の近い4年生から6年生4名で構成されています。発達段階が近いとは言っても4人とも違いますから、一人一人に合わせた個別最適な学びをICTで実現できています。



児童4人でじっくり学べる。

▶「きたコン」上の具体物を操作しながら問題解決

算数の学習では、具体物を実際に操作する活動を通して視覚的に理解することがとても効果的です。棒やブロックなどがよく使われますが、今回の授業では、「ゼリーが14こあります。1人に3こずつ分けると、何人に分けられますか。」という問題です。実際のゼリーを使うわけにはいきませんが、授業支援アプリのスクールタクト上でゼリーのイラスト14枚をお皿に分けていく活動を取り入れました。

ブロックをゼリーに見立てるより、児童はリアリティを感じて意欲的に取り組めると考えたからです。

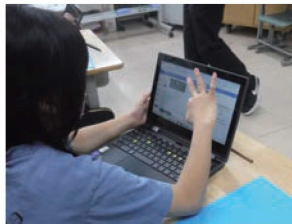
▶リアルタイムのモニタリングと共有

スクールタクトの大きな特徴として、いつでも児童の画面が一覧表示されることがあります。操作活動により児童が考えたことが視覚化されるので、間違っている児童や困っている児童が手元の「きたコン」から一目で分かり、素早くフォローすることができます。

また、特別支援学級の授業は複数の教師が担当することが多いのですが、画面はプロジェクターで投影されているので、どの教師も確認することができます。

▶単元を終えての成果

- ・イメージをつかめた児童は、スクールタクトを使わずに、ノートに自分で図を描いて考えるようになってきた。
- ・どの児童も意欲的に問題に取り組み、正しい答えを導き出すことができるようになった。
- ・単元のまとめでは、自分たちでわり算の問題作りを行い、友達と解き合う活動を通して、わり算の理解を深めることができた。



操作は一人でもできる。

* * *

特別支援学級は少人数を複数の教員で指導することから、とても手厚い指導が実現できています。ICTを活用することで、さらに個別最適な学習が実現できることを実感した授業でした。

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃん コンちゃん

by Toshi



児童・生徒向けチラシ&アンケート掲載特設Webページを開始しました!

北区では、今まで児童・生徒に紙で配布していたイベントなどのチラシやアンケートを電子化し、きたコンで児童・生徒が直接閲覧や回答できるシステムを6月から始めています。

毎月1日及び15日(土日祝日の場合は翌平日)に更新しており、保護者の方もご覧になることができます。

<https://sites.google.com/city-kita.ed.jp/info>

